

PRAEVIDENTIA DAILY (12月26日)

昨日までの世界：ドル軟化が継続

昨日は、殆どの市場がクリスマス休場で市場参加者が少ない中で、前日に続きドルが対主要通貨で軟調となった。ドル/円相場は東京時間に一時 119.98 円と 120 円を若干割り込む局面も見られたが、その後欧米時間は 120 円台を回復した後横ばいとなった。日本では日経平均の小幅安は、アベノミクス下でのドル/円との連動性を踏まえるとドル/円の下押し材料とした働いた可能性がある一方、本邦 10 年国債利回りの 0.31% への史上最低水準への低下は、日米金利差の面からはドル/円の下支え要因となったはずだが、昨日は材料で動く相場ではなかったようだ。ユーロ/ドル相場は 1.21 ドル台後半から一時 1.2254 ドルへ強含む局面がみられたが、その後は 1.22 ドル台前半へ小反落している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	-0.3	-0.00	+0.00	+0.00	+0.02	+0.00	-0.02	+0.0	-0.3	+0.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.2	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+0.0	+0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.1	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+0.0	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+3.4	+0.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.2	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+3.4	+0.0
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.0	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+0.0	+0.0

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

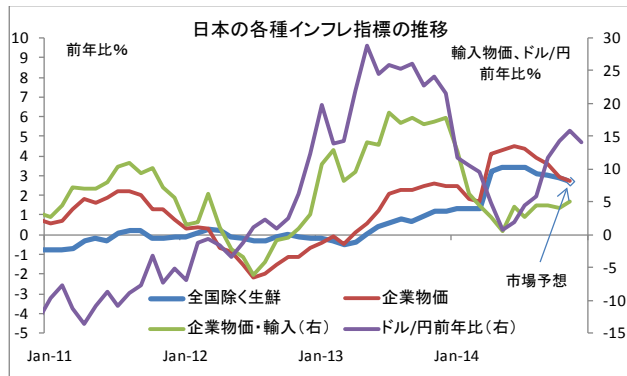
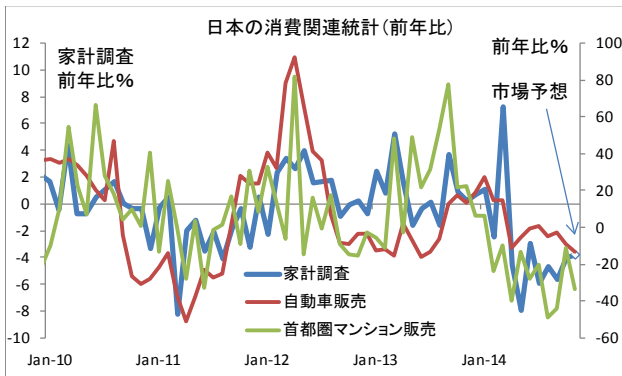
きょうの高慢な偏見：本邦ディスインフレはドル/円を支えられるか？

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<豪、香港、英休場>				
本邦 11 月家計調査消費支出・前年比	8 : 30	-4.0%	-3.8%	
本邦 11 月コア CPI 前年比	8 : 30	+2.9%	+2.7%	消費増税分は 2%ポイント
本邦 11 月鉱工業生産・前月比	8 : 50	+0.2%	+0.8%	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日もクリスマス休暇の続きで市場参加者が少ないとみられる中、足許のドルの調整がどこで落ち着くかが注目される。米経済や米金利などの動向は特にドル安を示唆していない中、本邦の材料的には、家計調査では消費増税後の反動減からの立ち直りが鈍いほか、コア CPI は原油安の影響もあって前年比+2.7%へ更に低下が予想されており(消費増税の影響を除くと+0.7%)、どちらかと言えば追加緩和の必要性を強め円安圧力で、ドル/円はいずれ上昇基調に戻るとみているが、本日の本邦統計発表に市場が敏感に反応するかは未知数だ。



来週の注目通貨：USD/JPY ↓、AUD ↓

来週の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<29日>				
<30日>				
英 12 月ネーションワイド住宅価格・前年比	16 : 00	+8.5%	+7.7%	
スペイン 12 月 HICP 前年比	17 : 00	-0.5%	-0.7%	
米 10 月 S&P ケースシラー住宅価格・前年比	23 : 00	+4.9%	+4.4%	
米 12 月消費者信頼感	0 : 00	88.7	93.0	
<31日>大晦日、本邦休場				
豪 11 月民間信用・前月比	9 : 30	+0.6%		
中国 12 月 HSBC 製造業 PMI 改定値	10 : 45	50.0		速報は 49.5
米新規失業保険申請件数	22 : 30	28.0 万件		
米 12 月シカゴ PMI	23 : 45	60.8	60.8	
米 11 月中古住宅販売仮契約	0 : 00	-1.1%	+0.5%	
<1月1日>元旦、殆どの市場が休場				
中国 12 月製造業 PMI 速報	10 : 00	50.3		
<2日>NZ、本邦休場				
英 12 月製造業 PMI	18 : 30	53.5	53.7	
米 12 月 ISM 製造業景況指数	0 : 00	58.7	57.9	
<3日>				
中国 12 月非製造業 PMI	10 : 00	53.9		

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

来週も年末年始で材料が少なく、ファンダメンタルズに関する新規材料を受けて市場が動き出すのは年明け 1 日の中国製造業 PMI や 2 日の米 ISM 製造業景況指数の発表以降となりそう。それまでは、ここ数日のように上下はするものの新材料を受けた意味のある動きというよりは、実需やポジション調整などの限定的なフローを受けたあまり脈絡のないものとなりそう。

米 ISM 製造業景況指数は米景気の短期的なモメンタムを見る上で重要で、特に来週は通常の月と違い米雇用統計と同じ週の発表ではないことから、相対的に注目度は高いかもしれない。既発表の NY 連銀およびフィラデルフィア連銀分はこのところ悪化しており、31 日発表のシカゴ分も悪化すると、ISM も 10 月をピークとして 2 か月連続の悪化の可能性が更に高まり、ドル上昇を抑制するかもしれない。

中国製造業 PMI は 7 月の 51.7 をピークに鈍化傾向が続いている。最近是中国の景気減速シナリオ自体は既に織り込み済みとなっており、豪ドルや NZ ドルもあまり影響を受けなくなっているが、景気拡大/縮小の分かれ目である 50.0 を割り込むようだと、さすがに株価や豪ドルが悪影響を受けるかもしれない。

ディスクレーマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641